

「市民と共につくり実現する長期総合計画」
—市長が思う第6次長期総合計画のコンセプト—

戦後日本社会の近代化の中、角田市は町も農村も豊かさを目指し開発型の地域振興政策をおこない、成功のうちに進んできたといえます。しかし、時代がさらにグローバル化、経済優先、都市への一極集中などに突き進む中で、角田市はその対極の状況、人口流出から少子高齢化、産業の疲弊、地域の衰退などが進みました。そして現在、世界規模の環境悪化、気候変動、資源枯渇、人口爆発、格差拡大、感染症蔓延など、社会均衡が崩れ持続の危機に直面する状況の中で、角田市は、急激な人口減少、社会の縮小に直面しながら、従来の方針から転換しきれないまま、財政もひっ迫し、市民は先の見えない不安のなか、悲観的な思いにさいなまれている状況です。

角田市は、大きな変革の時代の中にあります。

社会は大きく変動していますが、しかし、方向性は見えています。

気候変動や、格差社会の拡大は都市の過密の中では解決できません。豊かで、人間らしい生活は自然豊かな地方でしか実現できないものです。しっかりとした地域社会と文化があれば、地方は消滅することはありません。持続は可能です。SDGsの動きとの符号もそのことを示しています。

私たちが想像するよりも早く社会は変わっていくでしょう。その変化に向けての「準備の10年間」、できれば「始まりの10年」にしたいものです。現在模索している次期長期総合計画は、変化に向けての羅針盤です。それはどのようなものであるべきでしょうか。

物質的豊かさから精神的な豊かさに、地域振興政策の軸足を移すべきだと考えます。これまで優先してきた経済的豊かさ以上に、精神的な豊かさを志向する政策を行うことが、市民の満足、ひいては幸福につながるのではないのでしょうか。

近年の多くの研究や実践から、市民の幸福感を支える大切な要素は、社会の要請に答えているという感覚（充実感・誇り）、自己実現、自己成長、他者とのつながりの中で支えられていること、だとわかってきています。それらの要素を実現しようとする活動が幸福度の高い町づくりにつながっているとも言えます。自己実現や他者とのつながりを支えていける社会づくりが、これから角田市が進むべき方向だと考えます。

私は角田市の活性化の源は「市民力」だと信じます。「市民力」とは、地域の課題について主体的に考え取り組む市民の行動力、と定義しています。これは前述の“幸せの要素を実現しようとする活動”そのものです。「市民力」が繋がり広がって、大きな力になることで角田市は市民満足度の高い、幸せな町になるのではないのでしょうか。

市民力を発揮する市民の皆様と行政が、共に汗をかきながら地域の課題を解決していければと望むところです。

本日議題に供される基本構想（案）や重点プロジェクトにも、以上のことは込めさせていただいております。

「第4章 第1節 まちづくりの基本理念」に①②③と定めさせていただき、それぞれが重点プロジェクトにつながるわけです。①は市民の皆様に主体的にまちづくりに関わるプレイヤーになっていただく、あるいはプレイヤーを育てていこうという「人づくり」です。②は個人や企業までも含めた「市民」が、支えあい、助け合って共に生きていこうということ。③は地域の自然、歴史、文化、産業をポジティブに評価し、誇りをもって活かし、後世に繋いでいこう、ということです。その中でも、私は①がとても大切だと考えています。①の広がりやつながりが②③をかたちづくると思うからです。

以上のようなことをコンセプトとして、私は次期長期総合計画の策定に関わっているつもりです。

そしてもう一つ大切だと思っていることがあります。それは、次期長期総合計画は「市民の皆さんと共につくる」ということです。市民と行政が共に汗をかくための計画なら、当然つくる時からそうでなくてはならないと思うからです。しかしながら、このような前代未聞の作業は私ども行政には経験がありません。どうしても従来の手続きに終始してしまいがちです。それではコンセプトからも外れるし、狭義のものに終始してしまいます。

皆さまは多方面でご活躍のそれこそプレイヤーでいらっしゃいます。行政のみでは持ちえない広い見地から、活発なご議論をお願いいたします。

まずは、この拙文を議論のたたき台にいただければ幸いです。